

－ 第三十五回 金沢都市美文化賞記念事業 －

# 金沢の景観を考える市民会議



金 沢 市  
金沢都市美実行委員会

## 目 次

- 開会あいさつ ..... p 1  
金沢市長  
山 野 之 義
- 景観サポーター活動報告 ..... p 3  
報 告 者  
山 原 紀三子  
高 木 信 吉  
斉 田 啓 逸  
末 冨 しげ子  
武 内 啓 子  
吉 田 芳 弘  
竹 下 知 子
- 基調講演 「環境と建築」 .....  
講 師  
妹 島 和 世 (建築家)
- パネルディスカッション「都市の夜間景観」 ..... p 14  
コーディネーター  
水 野 一 郎 (金沢工業大学副学長・金沢都市美実行委員)
- パネリスト  
妹 島 和 世 (建築家)  
福 光 松太郎 (金沢都市美実行委員会委員長)  
山 野 之 義 金沢市長
- 金沢の夜景 パネル展 [付録]

## 「第35回金沢都市美文化賞記念事業－ 金沢の景観を考える市民会議」

開会あいさつ 金沢市長 山野之義

金沢都市美実行委員会の皆様方を初め、金沢の景観行政にさまざま立場でご助言、またご協力いただいている先生方、そして多くの市民の方にお越しいただきまして、改めて御礼を申し上げます。



皆様のほうがお詳しいかもしれませんが、金沢市は昭和43年にいわゆる景観条例というものをつくりました。全国の地方自治体の中で最も早くその条例化に取り組みました。条例は、きょう思いついてあしたできるものではない。その景観条例をつくるために恐らくは先輩方が何年も前から関心を持って勉強をして研究をして、昭和43年という大変早い時期に条例をつくられたと確信をしています。

そして、その条例に基づきまして、さらに進める形で行政だけではなくて経済界の皆様、多くの市民の皆様が金沢市の景観に配慮していただきながら、まちづくりがなされてきたと思っています。

この金沢の景観を考える市民会議は、平成21年1月に、行政だけではなくて市民の皆様、事業者の皆様とともに景観まちづくりを進めていくという観点から、意見交換の場として開催され、隔年行われています。今回は金沢都市美文化賞が35回の区切りのときでもありますので、改めて金沢市と共催という形で行わせていただきます。

皆様のお手元にありますプログラムどおり、まずは今、司会もしていただいていますけれども、景観サポーターの皆様方から活動報告をいただきます。そして、金沢21世紀美術館を初め、フランスのランス市で開館しましたルーブル・ランスの設計で世界的に活躍をされている妹島先生にご講演をいただきます。

その後、「都市の夜間景観」というテーマで、金沢工業大学の水野副学長にコーディネーターをしていただきまして、妹島先生、そして金沢都市美文化賞の実行委員長をお務めの福光松太郎さん、不肖私とでパネルディスカッションをさせていただければと思います。

実りある会議にしたいと思っており、私も水野先生のご指導のもと発言させていた

だきたいと思います。

改めまして、本日は、たくさんの方お越しいただきまして本当にありがとうございました。(拍手)

## 景観サポーター成果報告

それでは景観サポーターの活動報告をさせていただきます。私は景観サポーターの山原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

景観サポーターとは、金沢市長から任命され、金沢の景観に関する取材や調査を行い、良好な景観形成のために活動する市民ボランティアです。

(以下スライド併用 ○印)

○現在、第2期が活動しており、任期は平成23年3月1日から平成25年2月28日の2年間です。メンバーは、ここに示した25名です。

○景観サポーターの取組みについては、金沢市景観総合計画に示されております。

- ・市内の景観チェック、
- ・市民や事業者に対する景観誘導、
- ・金沢特有の景観資源の調査、
- ・景観に係る計画策定への参加、の4

つです。

第2期景観サポーターの活動としては、この4つのうち、赤で示した点検と取材・記録を行いました。



○こちらは景観勉強会の様子です。景観に関するサポートを行って行くために、まずは金沢の景観について知らなければならないということで、大学の先生や市の職員の方から、合計11回にわたって講義を受けております。一市民として改めて金沢について考え、市や県に任せるばかりでなく、市民一人一人が街ぐるみ、校下ぐるみで「いいね金沢」を創造できたらと思うきっかけとなる、有意義な時間となりました。また、この受講により、今まで何気なく通り過ぎ、見過ごしていた金沢の景観を違う角度から眺め、良いところ、改良してほしい箇所等々に気づくようになりました。

○具体的な調査内容ですが、景観サポーターそれぞれが、金沢の景観に関して関心のある分野を中心に自主的に活動内容を決めて役割分担をしながら進めてきました。その中から本日は、ここに示した6つのテーマについて、後ほど各担当者から報告させていただきます。

○これは景観評価シートの一例です。・調査した結果を評価シートにまとめ、景観を向上させている要因、あるいは阻害している要因を明らかにし、課題整理や提言を行いました。報告書については、テーマごとに入口のところに展示してありますのでご覧

下さい。また後日市のホームページにもアップする予定です。

○写真帳の一例です。景観評価シートの補足写真を載せています。

○また、取材・記録した内容の中から、市民への啓発や他都市へのPR、景観教育の材料としてDVDを作成しております。開演前にも流していましたが、内容としては、

- ・街路樹が織りなす金沢の四季、
- ・泉用水の景観と住民とのかかわり、
- ・水鳥が飛来する浅野川筋の景観、です。

それでは早速それぞれの担当者から活動報告をさせていただきます。

○活動報告をします。私は景観サポーターの高木と申します。よろしくお願いします。

○木造高層建築物等とその周辺の景観です。

○金沢のまちを歩いていますと、一般民家の古い木造3階建ての建造物を見かけることがあります。これらは金沢にとっての景観資産であり、後代に継承していくべきものであるということで、それらの現在の状態を調べてみました。

○調査の概要ですが、金沢市内の木造高層建築物等の特徴、用途、由来とその周辺の街路景観を29ヶ所調査しました。今回その中から本日は3ヶ所を報告します。明治から昭和前期に建築され、築60年以上経過している3階建ての建物です。



○その3つは、蛤坂、尾張町、東山です。

○これは皆様もご存じのとおり、料亭の山錦楼です。

○金沢市登録文化財で、明治28年(1895)に創業しております。その後大正11年(1922)建築されております。その後、昭和11年(1936)頃3階部分建て増ししております。狭い通りに電柱が立ち並んでおり写真の撮影も大変苦労しました。

○これは、犀川から見た景色です。政期の頃は崖地でした。ということは、川沿いにこのような道路がなかったということです。崖縁の4階建てでここだけの独特な景観を呈していました。

○これは、橋場町交差点から武蔵のほうに向かうとあります、森忠商店の建物です。

○創業 天保 13 年(1842) 大正末期から昭和初期に建築され、初めの頃ここから月見をしたということです。江戸時代、伊能忠敬が近くの旅館で北斗七星を観測したとも言われています。

○これは浅野川大橋の北詰にあります、綿谷薬局の建物です。この建物も今から約 90 年前に造られたそうです。

○このようにいろいろと調べたものも景観評価シートに記録しました。

○そしてその周辺の景観も写真帳に収めました。

○景観を阻害する事例の一つです。浅野川大橋から上流を眺めたものです。これは一体何なのでしょう。

○こちらは主計の茶屋街です。3 階建ての建物が建ち並んでいます。

○その対岸の様子です。

○景観はフレームの中からの目線ではなく広角的目線が求められます。主計町の美しい軒の連なりに対し、対岸は家々の裏側のためわびしさが漂い、景観上均衡がとれていないと思うんです。味気ない護岸に植栽などを施し、川の両岸や橋上どこから見ても違和感のないような姿にしたいものです。

○十間町、尾張町、本町の一部など古い町屋が残っている地域では、伝統的景観を後世に伝えようと努力していると感じさせるところがあります。一方、野町、木倉町、尾張町などの一部では、空家、廃屋が放置されているところがありました。更地は駐車場と化し歯抜け状の街路が出現、景観が損なわれています。市内を縦貫する国道では、尾張町から橋場町辺り また、犀川大橋から野町広小路辺りに新旧の建造物が、混在しています。

○金沢市に対する提言ですが、金沢市の文化財的建造物が近年 30%を超える勢いで消滅しているとこの前テレビで言っていました。金沢らしい独特な景観は、観光資源として益々重要性が高まり、河川も含めた地域全体が、バランスのとれた景観になるよう、文化財の保護と共に配慮する必要があると思っています。

○以上私の報告を終わります。

○私は景観サポーターの斉田と申します。私は用水の景観について調査を致しましたので、ご報告申し上げたいと思います。

○金沢の景観を構成する要素のひとつとして、市街地を網の目のように流れる用水の調査を行うことにしました。調査する用水は、次の理由から泉用水としました。

- ・一般市民にあまり知られていない用水
- ・市の中心部を流れ、多くの住民の生活に関わりがある用水
- ・にし茶屋街の傍を流れている用水 です。

○調査の方法です。泉用水（全長5 km）を徒歩により調査しました。予め地図に用水のルートを記入し、写真を撮影しながら歩きました。そして、沿線住民の方に用水が町内を流れている 長所、短所等を聞きました。

○この地図は、泉用水の流れを示したものです。取水口は犀川の下菊橋付近です。犀川の河川敷を暗渠で犀川大橋まで流れています。そして、犀川交番署の真下から白菊橋、北鉄野町駅へと流れています。途中、国造神社の手前で流れは二つに分かれております。一つは有松方向へ、もう一つは金沢高校へと流れています。二つの流れはラパーク金沢の手前で、一度合流し、最後は一つは伏見川へ、もう一つは増泉川に注いでいます。今日、ご報告する場所は赤色の所、白菊橋～北鉄野町駅の間です。



○次に調査の結果です。まず、泉用水の中で、市民や観光客の往来が一番多い、白菊町～野町の間ですが、道幅が狭い為でしょうか、右の写真のように、歩道を用水上に確保して、歩行者の安全と用水の開渠との両方を守っています。大変良いアイデアだと感心しました。泉2丁目も道が狭いので、是非検討して戴きたいと思います。

○次に、用水は、降雪時の雪の捨て場所として、大変助かっていると、住民の方は語っていました。又、用水の水をポンプで汲み上げ、ゴムホースを町内に張り巡らせ、消雪を図っている、積極的な町内もありました。町内に用水が流れているお蔭だと皆、感謝していました。金沢市は今後も道の狭い、除雪車の入れない所を優先に、消雪装



置に応援していただきたいと思いました。

○また、泉用水全コースの中で、一番景観の良い所と思いましたのが、野町の九谷光仙窯の前辺りです。用水沿いに散策路が作られ、市民の憩い場として重宝されております。川床をコンクリート化せず石が置かれ、石に藻が生え「めだか」が生育するようになりました。又、夏には「ホタル」も見られるそうです。これからも可能な所があれば、散策路の造成、更には無電柱化と景観の改善に、配慮して頂ければと思います。

○そのほか、調査中に、用水の流れが途中、暗渠になったり、民家の裏を流れたりするので、用水の行方がわかりづらいところがありました。自宅の前に流れがある方に尋ねましたが、用水の名前は知らないと答えられました。確かに今回調査して見て、用水名の標識は少なかったです。市はもっと用水名を、市民に周知した方が良いと思います。

○最後になりますが、泉用水は、農業用水として作られたそうですが、今では周辺の宅地化が進み、田畑への利用は少なくなりました。代わりに、消雪水源としての利用や道の狭い所は用水上に歩道を確保したり、その他散策路の整備や開渠化など、今後も住民の利便性と周辺環境との調和を考慮した景観対策を積極的に取り組んでいくべきと感じました。以上でご報告を終わります。ありがとうございました。

○私は景観サポーターの末富と申します。よろしく申し上げます。街路樹が 織りなす 金沢の四季 についての調査結果をご報告いたします。

○調査の目的は、森の都金沢の、沿道景観を構成する要素である街路樹の四季それぞれの景観を調査することです。



○調査は、道路を3か所特定し同じアングルで撮影しました。そうすることで、街路樹の四季それぞれの魅力を記録できると思いました。

- ① 山側環状道路 もりの里付近のケヤキ
- ② アメリカフウ通りのアメリカフウ
- ③ 大豆田通り 西金沢3丁目付近のナンキンハゼ です。

なお、金沢市内には、35種類以上の街路樹があります。人口ひとり当たり1本に相当する約50万本植えられています。

○調査結果について説明します。これは、山側環状 もりの里地区の 街路樹を 撮

影したものです。

ケヤキ並木は、綺麗でのびのびと育ち、無電柱化整備と相まって、景観的に素晴らしいと言えます。

写真からもお分かりの通り、季節ごとにそれぞれの表情があります。春は、桜が散って、ハナミズキが咲くころ、ケヤキに新芽が息吹きます。深緑の夏が過ぎると、もりの里は一年で一番すばらしい紅葉の季節を迎えます。そして冬、雄大で形のよいケヤキに雪の花が咲き誇ります。

○これは、アメリカフウ通りを市役所に向かって撮影したものです。右手に中央公園、左手にしいのき迎賓館があります。こちらも、もりの里のケヤキ並木に負けない四季ごとにそれぞれの表情があります。春、広坂通りの桜が散るのを待っていたかのように、アメリカフウに、あわい緑色の新芽が出始めます。夏になると、深緑に変わって、道行くものに涼しさを運んでくれます。また、秋になると、それはそれは綺麗な紅葉となって、都心にすばらしい景色をもたらしてくれます。大きなアメリカフウの落葉を大切に持ち帰る人たちもいます。冬は、まっすぐに伸びた幹が美しいです。多くの人々に愛されているアメリカフウ通りです。

○こちらは大豆田通り西金沢3丁目のナンキンハゼ並木です。春は、新緑のハート型をした若葉が出てきます。ピンク色のつつじも目を楽しませてくれます。夏は、歩行者にやさしい大きな日かげを作ってくれています。秋のナンキンハゼの紅葉は、まさに紅色でとてもあざやかな並木となります。冬は枝先に白い実をつけ、花が咲いたように見えます。でも今年は実の付きが少なく残念ながら見事な景観とはなりませんでした。

○調査結果のまとめです。四季を通して特色ある街並みを形成する街路樹は、人々の心を豊かにし、生活に潤いをもたらします。また、空気を綺麗にし、防災、防音などの役割を果たします。緑の量を確保し、のちのちに継承していくことが「森の都金沢」としてのつとめであると感じます。

○その街路樹の景観を維持するためには次のことが大切であると感じました。街路樹の剪定の際には、もっと景観に配慮してほしいです。また、落ち葉拾い、草とり、花壇の手入れ等のボランティア美化活動を推進しそして、その活動を発表する場などもあると良いと思います。それから無電中化整備を推進したり、道路標識や照明灯の支柱の色彩の統一化も、沿道景観を美しく見せる要素となるでしょう。

以上街路樹が織りなす金沢の四季に関する調査報告を終わります。ありがとうございました。

○水鳥と浅野川の景観とのかかわりに関

する調査について報告いたします。景観  
サポーターの武内と申します。

○私は、数年来、水鳥の写真をとり続けてきましたが水鳥たちが浅野川の景観を形つくる一要素になっていると考え、私の拙い写真を御目にかけてますと共に、金沢市民でもあるこの者たちのことを知っていただき、与えられた条件の中で懸命に生きている生命への深い思いやりとご理解を賜りたいと思います。詳しくは、写真帳をご高覧いただければ幸いです。

○場所は、鈴見橋から沖橋までで、私が歩ける範囲です。

○この間には、次の様な種類の水鳥を見ることができます。

○次に、これらの一部をご紹介します。近年目にするようになりました。亜種中大サギかと思われます。夏鳥です。これは青サギです。両翼を広げると 160センチもある大形のおとなしい鳥で留鳥です。これは上から、ゴイサギの成鳥と幼鳥と小サギです。彦三大橋付近では毎年数羽の幼鳥を見つけます。



○カルガモと小ガモ。小さい方が亜種小ガモで冬鳥です。カルガモは留鳥です。敵の多い弱い鳥ですが、他のとりと共存できる鳥で、屢々群の中にマガモやオシ鳥が混じり雁の子供が渡りの途中休んでいくこともありカルガモの存在は他の鳥に安心感を与えるようです。カルガモは田舎ではあまり見かけません。都会の川に住む人間と関わりの強い鳥だと思えるのです。

○これはハシビロガモのオスです。冬、七つ屋へ多数きます。幅広で大きな嘴をもつ小形の美しい冬鳥です。このマガモは2005年からカルガモたちと暮らしています。今でもそのグループとのお付き合いは続いています。利巧で温和な紳士です。

○これはオシドリは漂鳥です。2011年11月浅野川大橋でカルガモと一緒にいるのを見付けました。その後犀川の上菊橋へ移り、再度浅野川へ来て翌2012.2. 主計町で見たのが最後です。

○次に浅野川付近の景観を紹介します。まず、ユリカモメと浅野川大橋です。

○こちらも、浅野川大橋付近です。春の桜と、雪景色です。

○常盤町付近の様子です。此処には、未だ自然の趣が残り、川アイサやカルガモ、カイツブリも見られます。

○浅野川大橋から上流方向です。天神橋を遠望できます。

○天神橋から流す灯籠流しの様子です。

○北陸線のガード下をくぐると、眼前に七ツ屋の風景が広がります。川沿いの家には季節の草花が植えられ、中州や草原もあり種々な水鳥が見られます。

○此処は毎年、多数のハシビロガモや亜種小ガモが越冬する場所でもあり水鳥たちの貴重な生息場所の一つとなっています。

○浅野川では主として大橋周辺でボランティアが夫々の形で活動しています。有志団体や個人ボランティアは十年以上続けている人がほとんどで私もその一人でしたが、園遊会の後、真っ先に川原へ入り黙々と捨てられたすし折箱を拾うのはこの人たちです。

○また、県では不法投棄を監視する巡視員を委託しています。市では水質保持のため定期的に定点調査をしています。

○浅野川は、川巾が狭く、水量もそれ程多くはありません。短い区間で高低差が大きく、流れが速いのが特徴です。この水深の浅さと蛇行のためできる川原や瀬、澁みが多く生き物たちを惹きつけ、生息できる要因となっているように思われます。犀川は、川巾も大きく、ある程度人の活動域からはなれています。浅野川は、まちなかを通っているため、町民にとって憩いの場が傍らにあり、まちなかの日常に組み込まれながら、尚、水鳥が生息できる状態と環境を持ち得る川であることを意味し、それを維持することは、まちの豊かな景観を形づくり、自然資本としての生物の保存と、その生物の多様性の維持が国際的にも提唱されている昨今、水鳥と共存する優しい街金沢はまた、文化都市でもあることを発進する事にもなると思うのです。以上で、私の報告を終わります。

○舗装材から読み解く金沢の景観ということで調査結果を報告します。私は、景観サポーターの吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。調査者は、ここに示してある5名です。

○調査の目的としましては、金沢市内の景観舗装が、街並みにふさわしいかどうか、また、バリアフリーにも配慮されているかを調査するものです。市内の幹線や比較的幅員が広く歩道がある道路を対象として、調査を行いました。

○まず1つめの場所ですが、武蔵ヶ辻の交差点付近です。駅前通りから連続して赤いみかげ石を使用しており、金沢市の近代的なエリアを代表する道路としての風格が感じられます。・誘導ブロックは歩道と同色になっており景観に配慮されているが、視覚障害者にとっては少し認識しづらいかなと思われま

○続きまして、大手門中町通りです。大手堀を背にして、尾張町に抜ける道です。大手門通りの歩道は、茶系の石の洗出し舗装であり、自然石が和風の街並みになる様に一役買っていると思います。視覚障害者用誘導ブロックは明るいベージュのものを使用しており、弱視の方にも認識しやすく景観にも配慮しており、望ましい組み合わせであると思います。コンビニの看板なども色合いを工夫してもらえれば、さらに景観が向上すると感じました。



○こちらは兼六坂です。10cmから20cm程度の鉄平石をランダムに敷きつめてあります。主に金沢城の周辺に連続的に使用されており、整備後20年以上経過していますが、金沢の風合いに似合っていると思います。視覚障害者用誘導ブロックは、歩道の同色のものが設置されています。

○広坂通りの赤レンガ舗装の状況です。四高記念館やしいのき迎賓館（旧県庁舎）が建っています。・赤レンガの風合いは本多の森広場のほうでも設置されていますが、アンティークな雰囲気をつくるのに役立っています。こちら歩道と同色の視覚障害者用誘導ブロックが設置されています。

○近年施工されたいもり堀まへの歩道です。グレー系の脱色のアスファルト舗装であり、自然な土系の色合いで舗装材としては素朴で目立たないおとなしい雰囲気です。視覚障害者用誘導ブロックは設置されていません。

○調査結果のまとめとしまして、歴史都市認定を受けた金沢市は、古い街並みは特にカラー舗装よりも、石張りの舗装や、自然石洗出し舗装などナチュラルな素材の似合

うと思います。特に金沢駅から武蔵ヶ辻までは赤みかげ石が敷きつめることで、金沢市の近代的なエリアを代表する道路としての風格を感じさせています。

○また、本物の石材や再利用可能なブロック等は、経年後の風合いも良く、地震などの災害が起きても、いち早く復旧のできる「備蓄材料」であり、「金沢市民の財産」として考えるべきであると思いました。視覚障害者用誘導ブロックについては、いたずらに鮮やかにすれば、景観を阻害するおそれがあり、視覚障害者が視認性を確保できる前提で、景観にも配慮することが求められる。現状では、歩道の色合いとよく似たものが設置されており、弱視者にとっては認識しにくいと思われるところもありました。以上で舗装材から読み解く金沢の景観の調査の報告を終わります。

○こんにちは。『沿道における広告物や建物の調査』について報告します。私は、第2期景観サポーターの竹下と申します。宜しくお願いします。

○まず調査の目的ですが、近年、道路沿いの広告物が多様化しており、景観に調和しない色合いや形のものが目に付くということが調査を始めるきっかけで、特に市街地へのアクセス路線は、金沢の第一印象を決定するといっても過言ではなく、まさに「金沢の玄関口」として、美しい沿道景観を形成していくことが大切であるということで、調査した景観サポーター自身が、観光客になったつもりで沿道景観を調査することとしました。



○調査した路線のまず1つ目として西インター大通り、野町広小路交差点から北陸自動車道までの区間です。

○2つ目の路線として東インター大通り、馬場小学校から8号線までの区間です。

○3つ目の路線として諸江通り、駅西の広岡1丁目交差点から、8号線（諸江交差点）までの区間です。以上3つの路線を主に調査することとしました。

○調査概要の1つ目としまして、広告物や建物の以前の写真を金沢市から提供してもらい、改善後の状態を評価するため、同じアングルで写真を撮影しました。概要の2つ目としましては、調査路線ごとに景観を向上させている要因や、逆に景観を阻害している要因について確認しました。この報告では、調査時点での一部を紹介します。

○独立広告、建築物の改善例です。こちらが西インター大通りの事例で、調査時点での写真です。この様にお店が変わりました。広告物の高さや大きさが、少し小さくなっていることが分かります。また、広告物や建物の屋根の色合いも、以前は、かなり鮮やかだと思われる黄色から、金沢市基調色を意識したと思われるシルバーグレイ、利休鼠といった趣のある色調に改善されています。

○屋上広告の撤去です。こちらも西インター大通りの事例です。お店が変わった時に、鮮やかすぎる色合いの屋上広告が撤去され、沿道景観として、少しでも金沢らしく落ち着いた色調になるよう、改善されていると思います。

○次の事例です。見ての通り、屋上広告が撤去された状況です。以前、壁面に描かれていた文字や絵が、趣(おもむき)のある格調高い濃いグレー一色に塗り改められた状態です。

○電光掲示板の撤去と言う事で、この写真<sup>右側</sup>には文字等の電光表示が出ていないのでわかりづらいのですが、かなりと言っていいくらいの文字や柄の電光掲示がされていた様です。これを撤去してシンプルになったと言う状況です。

○次に、独立広告の改善(諸江通り)の事例です。こちらは、諸江通りですが、非常に大きな広告で8号線からも見えていたものです。建築物の外壁の改善と言う事で、鮮やかすぎる黄、赤から金沢らしさを少しでも意識したかのような色調になった状態かと思われます。この様にお店が変わる時に、適正な大きさと色合いに改善されています。更に多くの沿道景観事例の調査等に関しましては、評価シートにまとめておりますので、ご覧ください。

○調査結果まとめの課題として、いくつかの改善した事例はあるものの、色彩など景観に配慮した方がよいと思う広告物や建物が、まだ数多くあることが分かりました。沿道ののぼり旗などについては、設置者のモラルの問題ではありますが、自主的に配慮してもらえそうな雰囲気づくりができれば良いと思います。

○最後に金沢市に対する提言として、調査した3つの路線は、県外からお越しの観光客が、観光バスやマイカーで、金沢市街地に入るために利用する主要な道路です。金沢の玄関道路でもあり、今後も更に沿道景観向上に対しての配慮と理解が必要なのではないかと思えます。

○以上で景観サポーターの活動報告を終わります。どうも有り難うございました。

## パネルディスカッション「都市の夜間景観」

コーディネーター 水野一郎（金沢工業大学副学長・金沢都市美実行委員）

パネリスト 妹島和世（建築家）

福光松太郎（金沢都市美実行委員会委員長）

山野之義（金沢市長）



【司会】ただいまより、パネルディスカッションを始めます。

壇上の皆様をご紹介します。舞台向かって左より、本日のパネルディスカッションのコーディネーターを務めてくださいます金沢工業大学副学長の水野一郎様です。水野様におかれましては、石川県及び金沢市の景観審議会、都市計画審議会をはじめ数多くのまちづくりに関する審議委員をお務めになりました。金沢都市美文化賞にも草創期から携われるなど、永年にわたり金沢の景観行政を牽引されてこられました。

続きまして、パネリストの方々を紹介させていただきます。建築家の妹島和世様。

妹島様には記念講演に引き続いてのご登壇となりますが、よろしくお願いたします。続きまして、金沢都市美実行委員会委員長の福光松太郎様です。福光様におかれましては、石川県や金沢市の景観審議会委員をはじめ、数々のまちづくりに関する委員をお務めになるとともに、金沢経済同友会副代表幹事として、県政や金沢市政の発展に寄与されてこられました。続きまして、山野之義金沢市長です。

ここからは、コーディネーターの水野様に進行をお願いいたします。どうぞよろしくお願いたします。



【水野】 1時間の予定ですが、今もう時間が15分近く過ぎておりますので、45分で特急でいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

きょうは11時から都市美文化賞の表彰式がございました。もうはや35回でございます。経済界の人たちが興した都市美運動から始まって35年間、これは金沢は非常に自慢していい素材ではないかと思っております。その間に表彰された物件が年間10件だとしても350がまちの中にあるということでございます。これから先も考えると、金沢がそうやって新しいものを積み重ねていっているという、そのことをきょうの午前中、実感いたしました。

それから昼から、この前に景観サポーターの活動報告がございました。6件の報告がございましたけれども、皆さん金沢のまちをどうしたらいいかな、景観がどうしたらきれいになるのかな、あるいは新幹線時代を迎えて自分のまちも自分のお店も何とかしたいなというような気持ちが伝わってまいりました。

そして先ほど、妹島さんにお話をお聞きしましたけれども、21世紀美術館をつくって、それから先生がどんどんイメージを発展させて、さっきのルーブルなんか見ると建築というところから離れたところに到達しちゃっているかなというすごい感慨を覚えております。金沢発と言っていいかどうかわかりませんが、一つのきっかけになったかと思うと、これもまた非常におもしろいなと思っております。

そして先ほど景観、夜のスライドが出ましたけれども、この市民会議も3回目でございます。金沢の景観をつくる、守る、育てるという会議をしてまいりました。積み重ねてまいりました。今回は、とうとう夜景をやろうというのですね。夜を。なかなかこれは難しいなと思っておりますが、3人のパネリストの方々それぞれの思いがあるようでございますので、それをご披露していただいて皆さんと一緒に考えてまいりたいと思ひます。

それでは、きょうの進め方でございますけれども、最初にお三方から都市における夜間景観の魅力みたいなものを一般的な話でいただきたいなと思っております。それから2回目にお話しいただくときに、金沢という舞台で現実的にどんなものがあるかということを考えていきたいなと思っております。

最初に妹島さんからお願ひしたいのですが、先ほど妹島さんのほうでは「環境と建

築」ということで特に夜間景観ではなかったのですが、少しスライドにも何シーンか出てまいりましたが、妹島さんの建築は、逆に言うと夜間のほうが中身がよく見えるという建築でございましたけれども、そんなことも含めまして妹島さんからお願いして、そして福光さん、そして山野市長というふうにしたいと思えます。

それでは妹島さんのほうから、よろしくお願ひします。



【妹島】 引き続き、よろしくお願ひします。

私は自分が設計させていただくときに、夜間こんなふうにしたらいいなというのは特別に、例えば最重要課題というふうなことでは設計していないので、申し上げることも余りないのですが、一般的に夜景というのは魅力ですね。知らないまちに行くと、夜景がああきれいだなと思うとすごく印象深くなる。どうしてかなと思ったけれども、やっぱり昼と全然違った形があらわれてくるということなのかなと思ったんですね。今見せていただいた映像もそれをよくあらわしていて、昼は当然いろんなまちの中に訪ねて行って、そこで人のことを見たりいろんなものを見たり、ある活動を見てわいわいするわけです。それと一転して全然違った表情が浮かび上がってくるというのは、また違った体験であるし、それから例えば金沢で具体的に今示されたように、例えばひがし茶屋、あそこだったらぼんぼんとかなるし、橋だったらこうなるし、城壁だったらこうなるとか、ずっと同じと見ていた風景がライティングの仕方によって、その場所の固有性というか雰囲気は夜のほうがあらわれやすくなるのかなと。つまり見たくないものは消えて、特徴的な浮かばせ方ができる。そういうものが体験できると、昼とはまた違って非常に魅力的だなというようなことを思いながら見せていただきました。

【水野】 実は2011年に金沢はシティ・ピープル・ライト賞というのをいただいたんですね。世界で27都市ぐらいが応募し、金沢は第3位を受賞したのですが、その賞の中で、金沢城のライトアップとか兼六園のライトアップとか、そういうライトアップという部分と、もう一つ評価されたのは、妹島先生の21世紀美術館みたいなもので、ライトアップじゃなくて建築そのものが発する光みたいなものも表彰されたのです

ね。だからライトアップと違って、建築そのものの中身から出てくる。そういう意味で配慮されたことが評価された中に入っておりました。

【妹島】 私としては、ライトアップというのも重要だし、片方で建物の場合、中でどういうことがあって、そういうものがやわらかく外にあらわれてくると、昼とはまた違ったつながり方がされるかなと思って、そういうふうなことは。ライトアップというか、それ自体が全体に出てくるということですね。

【水野】 そうですね。中から出てくるという感じですね。

それでは福光さん、よろしくお願いします。

【福光】 夜景ということですが、先ほどの菱川勢一さんの4分間の作品というのは、人間が見た目とはちょっと違うので、ある人の作品になっておまして、非常にすばらしいカメラをわざとアウトフォーカスで使ったりしておられるのですが、実際人間が見ると微妙な光は見えないし、明るい光は印象に残るしみみたいなことになっていて、そこはまだこれからのことなのですから、ああいう方の作品で出すとこういうふうにも映るという非常にいい見本だったと思います。

夜景について、2回ぐらい機会があったのですが、一つは30年前に、これは水野先生も巻き込んで、フードピアというものをつくったころ、その中の仕掛けでライトアップというのを随分積極的にお願いをしていった経緯があります。そのときにはまだ石川門だけがライトアップされておまして、そのときに近代文学館とか歴史博物館ですとか今常設ライトアップになっているものがフードピア期間中に限りやってみようということになりまして、やってみたらなかなかいいねということで、それからだんだん常設になっていったということですし、武蔵が辻の金箔雪吊りなんかもフードピアでつくったものですね。そういうことがありまして、ですからスポットたるすばらしい建築物をライトアップすることをもっともっとしたほうがいいというふうに強く思った時代がありまして、今もちろんそのとおりなのですが。

もう一つは、これも水野先生と一緒にやっております創造都市会議というのを経済同友会、県、市でやっておりますけれども、2002年の会で金沢の夜景を開発すべしという提案をいたしました。提案をただけではだめなので何かいいように変えようということで、日常性の中の夜景というのをどう考えるかということで、照明部材がどんなものが本当はいいのかというのを、これは松下電工さんに協力をいただいて、よく創造都市会議では社会実験というのをやりますが、その一つの実験を広坂通り

と広坂緑地を使ってやったわけです。

そのときの仮説は、当時、ポール照明といいまして高い柱の上に水銀灯がついている。今もまだたくさんあるのですが、そればかりになっているのはなぜなのかということで、あれは余りものを美しく見せないの、それでいいのかどうかということ仮説にしまして、なぜああいうポール照明ばかりなのかということを県の人に聞いたら、あれが一番電球を割られにくいのですと。それは届かないからで。そういう答えがあって、全然見映えと関係ないですねという話をしたのを覚えています。

それで2004年に広坂通りで松下電気さんの照明部材をいっぱい立てまして、市民の方々数百人に見てどうですかというアンケート調査をしたのです。そうしたら基本的に低い部材にしたいという思いがあったので、結果論としては低い部材がいいことになって、低い照明部材でふわっと照明して、ポール照明をしないと。広坂緑地のほうから実際にそれが採用されて、今、広坂緑地のほうはその照明になっておるわけです。

両方の経験からいいますと、金沢が誇るべき場所を美しくライトアップするとか、そのときにはそのときなりの覚悟を持って、よほど美しいライトアップが必要だということでありまして、今金沢でやっているライトアップですと、まだそれぞれの話になっておりまして、統一したデザイン感がなかったり照明の色がばらばらだったりしておりますし、イルミネーションのほうもそれと連動していないという状態です。

もう一つ重要なものは、金沢文化の特徴というのは日常性が非常に質が高いというところがあります。それが都市美の考えにつながっているのですけれども、夜景のほうも普通の町並みとか、ひがしの町並みは独特の町並みなので、ああいう照明をしておりますけれども、ごく普通の町並み。ごく普通の町並みというのは、昼見るとただのアジアの町並みなのですから、夜はどうにでもなるというのが夜なので、日常の中の町並みの夜の見せ方、これが重要ではないかと。つまりいろんなメインスポットが演劇でいうと俳優さんであったりするというふうに考えますと、普通の町並みを夜美しく見せるのは舞台美術のようなものではないかと思ひまして、金沢の場合、スポット、スポットのすばらしいライトアップなども重要でありますけれども、都心の町並み、普通の町並み、それらをどのような光で夜の見せ方をするか、あるいは住んでいる人たちのためにも自分のまちを愛するために夜をどんなふうに照らすか。決して派手に明るいものではないと思うのですけれども。このような舞台美術的な夜景というのは、これから大変重要になってくるのではないかなと思います。

【水野】 それでは続きまして、山野市長さんのほうから。金沢はいろんな施策を展開してきておりますけれども、そういうことも含めて、よろしく申し上げます。

【山野】 先ほど水野先生のほうから、とうとう夜間景観の議論をという表現がありました。僕はまさに言い得て妙なお言葉だというふうに思っています。冒頭で私は、昭和43年に金沢市は全国に先駆けて景観条例をつくって景観施策に取り組んできたというお話をしました。恐らくはその昭和43年の時点で、夜間景観をどうしようとか夜の見せ方をどういうふうにしようということは、恐らく議論されてなかったというふうに思います。いい意味での時代の流れの中で、夜間景観ということが出てきたのだというふうに思っています。

パワーポイントで、僕は2回しゃべる機会を与えてもらっていますので、1回目は金沢市の今先生おっしゃっていただいたような現在の取り組み、2回目はこれからどういう方向で行こうかというお話をさせていただければと思います。

○では1回目の、まさに水野先生におっしゃっていただきました、特にライトアップをしたりとかそういう形ではなくて、建築そのものが夜間景観を形成しているというのが象徴的な21世紀美術館だと思います。

○これも今お話ありました平成23年、金沢市はシティ・ピープル・ライト賞を受賞しました。まちなかの照明が自然環境に十分配慮しながら、また、まちの個性でありま

す歴史や文化というものを一体的に表現することに成功しているというのが評価された理由だとお聞きをしています。

ちなみにこれはオランダのフィリップス社がいろいろとやってくれていまして、僕は初めて知ったのですが、ミッフィーちゃんはオランダ生まれで、受賞を記念して金沢駅のほうでミッフィーちゃんがライトアップされたものがしばらく展示されていました。駅で通勤通学されている方は毎日楽しんでいただいたのではないかとこのように思っています。



○昭和43年の景観条例の話をしましたけれども、平成17年に夜間景観形成条例をつくりました。にぎわい景観創出であったり歴史的なもの、自然景観をそれぞれ保全しながら、また創出をしながら夜間景観を大切に守っていこうということで条例をつくらせていただきました。

○では、いろんな夜間景観がある。今ほどありました歴史的な空間であったり自然環境であったり、また、にぎわいのための景観創出であったりという点。出口のところに幾つもの写真が飾ってありますけれども、アンケートをとらせていただきました。そのアンケート、全部ではありませんけれども比較的人気が高かったものを幾つかご紹介しながら進めていきたいというふうに思います。

○これは言うまでもなく兼六園、あの雪吊り。雪吊りがあんな光が当たると本当に金箔の雪吊りのように見える。しかも水面に雪吊りが映って大変きれい。またちゃんと時期を見はからって雪がほんのりかかっている景観。本当にすばらしいなというふうに思います。

○これはキゴ山から望んだ金沢市街、全貌と言ってもいいのかもしれませんが。金沢市街全貌を夜の景観を見たらこんなふうに見えます。これも大変人気が高かった景観であります。

○言うまでもなく金沢城をライトアップしたものであります。

○金沢城いもり堀の石垣ですね。これも金沢城ですけども、どちらかといえばお城というよりも石垣が広く見える。その石垣にライトアップした形と、いい意味での鬱蒼とした森がある。まさに時代を感じさせるものと思っています。

○冒頭もお話ししました妹島先生の、ライトアップをするというよりも建築そのものがすばらしい夜間景観をつくっているということです。先ほど水野先生のお話もありましたように、この作品もシティ・ピープル・ライト賞を受賞するのに大きな評価を

いただいたということもお聞きをしています。

○東山ひがし地区であります。まさに金沢を代表する、お昼でもそういう感じはしますけれども、新たにライトアップするというよりも自然な形でのガス灯を工夫することによって、ほんわりとした雰囲気が出ているのではないかと思います。

今見ていただきましたように、この後2回目のときにお話しさせていただければと思いますけれども、やはり金沢市民の皆さんに高い評価をいただいたのは、自然環境であったり歴史的空間を感じる、我々金沢人がイメージする金沢らしさを浮き彫りにする場所で、そういうところが我々金沢人にとって夜間景観に親しむきっかけになっているかなと思います。このベースをしっかりと守っていきながら、先ほど福光さんちらっとおっしゃいました統一感、金沢市全体の中での統一感を持ちながらの夜間景観施策をこれから考えていきたいと思っています。

【水野】 ありがとうございます。いろいろなシーンがあって、皆さん方、この映像を見ながら金沢の夜景はこんなのだったかなと思い出しながら聞かれているんじゃないかと思っております。

実はきょうから17日まで、先ほどの兼六園の金色に光っている雪吊りのシーンが見られますし、お城も多分17日までやっていると思います。これは先ほど福光さんがおっしゃったフードピアの期間に合わせてございます。夜間なかなか兼六園の中に入る機会はありませんけれども、このときばかりは無料でオープンですので、ぜひきょう、この帰りでもいいですから行ってみたら、このシンポジウムをもう一回自分たちで考え直すいい機会になるんじゃないかと思っております。

それではもう一通り、また3人のパネリストにお願いしたいと思います。

先ほど、山野市長は次のを早く言いたいような雰囲気でもございましたので、山野市長から入って、福光さん、妹島さんという形でお願いしたいと思います。

【山野】 それでは、先ほど申し上げました夜間景観条例の中でも歴史的な空間保全であったりとか自然環境保全の景観と同時に、にぎわい創出の景観ということ平成17年の段階で想定した形での条例というお話をさせていただきました。さっきの写真のアンケートでも、まさに歴史的なものであったりとか自然環境を守るものも評価をもちろん幾つも得ていますけれども、にぎわい創出という観点から人気があったものに幾つか触れながら、少しお話しさせていただければと思っています。

○こちらは皆さんご存じの、まさに今の時期ですね。香林坊のイルミネーションです。本当にきれい。色も以前は白じゃなかったかと思うのですが、工夫をしながら香林坊のイルミネーションが高い評価を得ています。これは結構日常的に目にされている方は多いかと思しますので、もう大分自然な形で受けとめられているのではないかなと思います。

○先ほどキゴ山からの全景を見ていただきましたけれども、こちらは石川県庁の展望ロビーから金沢市の中心部を望んだ夜間景観であります。これもアンケートでは人気があったものでもありました。

○駅のガラスドームであります。ご案内のとおり、この金沢駅はアメリカの旅行雑誌におきまして世界で最も美しい駅14のうちの一つに選ばれました。何で14なのかわかりませんが、世界で最も美しい駅に選んでいただきました。日常的な明かりにプラス、当然ガラスドームもライトアップしておりますけれども、自然な形での夜間景観が大変美しいという評価を得ているのではないかというふうに思っています。

○鼓門、もてなし広場であります。

やはり駅のドームです。金沢のランドマークと言ってもいいのではないかなと思います。多くの方に金沢らしいと評価をいただいているのではないかなと思いますし、これをライトアップすることによりまして一層際立つような形になっています。



○ちょっと意外かもしれませんが、木倉町です。木倉町はある種庶民的なぬくもりを感じさせる空間ではないかなというふうに思います。私の好きな新天地も、木倉町も好きですが、本当に庶民的な多くの方たちが気軽に飲みに来る。これも景観が美しいということもそうかもしれませんが、親しみを感じるという点で人気があったのではないかなと思います。

繰り返しになりますけれども、歴史的な空間であったりだとか自然環境であると同時に、にぎわい創出という表現になるかと思えますけれども、そういう部分においても人気が出ているということをお今回のアンケートで感じさせていただきました。



去年の夏に私は金沢市の姉妹都市のベルギーのアントワープ市とフランスのナンシー市に行っていました。景観のことを勉強しに行くというのではなくて、いろんな友好であったりだとかさまざまな具体的な若者同士の交流の締結であったりだとか、もちろんそういうことがありましたけれども、さまざまな勉強をしていく中で夜間景観が大変印象に残りましたし、私は議会での報告でも夜間景観のことも申し上げさせていただきまし、多くの方のご助言もいただきながら夜間景観というものに力を入れていきたいというふうに思っています。

一つには、新幹線時代を見据えてナイトカルチャーという面で力を入れていくということも大切なことだというふうに思っています。ヨーロッパのを少し見ていただければと思います。

○ベルギーのアントワープ市になります。ライトアップしているものが運河に映って、本当にすてきな景観ということを感じさせていただきましたし、自然な形での夜間景観というものを感させていただきました。

○これはアントワープ市のまちなかです。ヨーロッパは皆さんご存じのように、去年の8月でしたからオープンカフェで、夕方から、昼過ぎと言ってもいいかもしれませんけれども、皆さんお食事をとりながらいろんなコミュニケーションを図っていらっしゃいます。夜になりましたらこういう形で、ちょっと暗くて見えづらいかもしれませんが、オープンカフェでたくさんの方たちが食事をしながら、またお酒をいただきながらコミュニケーションを図っているという写真であります。

実はこのアントワープ市、先ほど、金沢市がシティ・ピープル・ライト賞で第3位に選ばれたとちょっと自慢をしましたが、アントワープ市は2005年のシティ・ピープル・ライト賞で第1位をとった都市であります。先ほどの運河に映る夜景であったり、こういう日常の中での夜景ということが大変高い評価をとったと思います。金沢市の夜間景観と同じように、自然な形での濃淡であったり陰影を感じることができました。

○次、もう一つの姉妹都市、ナンシー市。僕は初めて行ったのですけれども、まちなかに世界遺産のスタニスラス広場があります。ここでナンシー市はライトアップというよりも、東京駅で一躍有名になりましたプロジェクションマッピングをされています。しかもヨーロッパですね、やっぱり。夜の10時ごろから始めるのです。金沢とか日本というのは午後7時か8時ごろから始めるような印象がありますけれども、夜の10時ごろから始めます。これもそうですけれども、次の写真も見ていただければと

思います。

○同じ場所です。これはアミューズメントと言ったほうがいいのかもかもしれません。さっきのものも含めて5分ぐらい、ストーリー性のあるプロジェクションマッピングをすることによりまして、一つの光景を、景観を美しいと楽しむだけではなくて、ストーリーも楽しみながら夜間景観を堪能しているというのがヨーロッパで大変多くなっていると感じました。これを世界遺産のスタニスラス広場でやることによって、より多くの方たちが世界遺産を見に行くと同時に、世界遺産のナンシーに行くのだからもうちょっと夜遅くまで頑張っこのプロジェクションマッピングを見ていこうかということで、本当にたくさんの方が。見てもわかるかと思えます。

先ほど申し上げましたように、ナイトカルチャーという視点は大変大切だというふうに思っています。ライトアップもそうですし、プロジェクションマッピングもそうだというふうに思っています。

それだけではなくて、金沢市はさまざまな文化施設が幾つもあります。用水もあります。できれば文化施設も、24年度から幾つか試みてはいますけれども、毎日は難しいかもしれませんけれども、いろんな行事に合わせて夜間開館ということも考えていくことができるといふ思いですし、夜間開館も通常のあけっ放しではなくて、その中で少しアミューズメントといえますか伝統芸能を感じるようなものであったり、また小規模なものでもさまざまなイベント、ミニ演奏会なんかも、行政が全部やるというのではなくて市民の皆さんと協力をしながらしていくことによって、夜間開館との連動性を持たせていくことができないかなと今考えているところであります。

ただ、その場合であっても、やっぱり福光さんも先ほどおっしゃいましたように、一つ一つはそれぞれ個性的な工夫をしていくにしても、金沢市全体の夜間景観というものを誰かコーディネートできる方が把握していきながら、一体性を持ったストーリー性のある中での夜間景観施策が大切と思っていますし、これはまた市民の皆さんや経済界の皆さんとも相談をしながら取り組んでいくことができるといふ思います。

私のほうからは以上です。

**【水野】** 大変積極的に夜を楽しませようという市長の姿勢を感じております。

夜を楽しむというのは、建物の中じゃなくて、ほとんど外部空間ですよ。公園であったり道であったり広場であったりしているわけです。そういう外がにぎわいのある場所として夜演出されるということはなかなか難しく、今までなかった。そうい

う意味では夜を楽しむのにгентにしてもみんな人が出てきている。そういう風景がありましたね。まちで夜を楽しむという風景が出ると、また一つ、一段と都市の魅力が上がるのではないかと思いますね。

都市は24時間動いているという観点からいえば、夜は建物の中だけという時代が変わって、もう少し全体まちに出てこようよというそんな仕掛けをいろいろ提案なさったように思っております。

それでは、福光さん、お願いします。

【福光】 市民の投票の場所を幾つも映していただきました。どちらかというとも昼間もしっかりと明確な個性というか、そういうところを夜照らしてあるのでとてもいいというふうに、大体そういうふうになっているんですね。さっき申し上げたように、そういうところは金沢にとって夜の主演、助演の俳優さんだとすると、さっき山野市長さんのお話の中で、さらに統一感を持たすことと、それぞれにストーリーとかエピソードというかそういうのを生かした夜景と、それから光だけに頼るわけではなく、いろんなイベントも含めてやっていただくということなので、大変いいお話だと思いました。

俳優さんの部門はそれでいけそうですが、ちょっと私2つ申し上げたい。

さっき言うておりましたように、いわゆる日常の町並みの夜の光というのをどうするかというのを少し考えなければいけない。よく関東のほうでクリスマスになると普通のお家の町並みがイルミネーションで競い合って、すごく美しいところが出てきておりますけれど



も、金沢はクリスマスイルミネーションではなかろうと思いますし、できれば通年的に、ある町並みだったらこんなふうなとか。昔、照明というのはごく小さなものだったわけですよね。それで日本の町並みが大体できていたとすると、木と紙でできている町並みを照らすのには余り大きな電力は要らないと思うのです。そういう部分というのはまだこれからの研究になると思いますので、金沢はぜひこの研究はすべきではないか。したがって、この分野は場合によっては研究を進めていくと同時に、そ

のうち都市美の表彰の中に町並み夜間景観賞のようなものができたら大変いいなというふうに思います。スポットライトの当たる夜景ではなく、日常の中をどういうふうに美しくするかという観点の話でございます。

もう一つは、逆に世界から見た場合ということで、実は夜景でなくてもいろんな外国の方々が、今、Pinterest（ピンタレスト）というアプリがありまして、いろんな映像、画像を自分の好みで選んでいくようなものがありまして、それで日本の都市というふうに引くとどこでも全部一緒に見える。昼間ですよ。金沢というふうにそれで引くと普通の日本の都市が出てくる。全然差がないということをよく言われます。ましてや夜景が、どっちがやりやすいのか。夜景を先につくったほうがやりやすいのか。夜景の分野で金沢というのが世界で認識されるような場所を一つでもつくることはできないだろうか。こんな観点もこれから必要になってくるんじゃないかと思います。

2つ申し上げた一つは、ごく日常の町並みのほのかな光の話。それからもう一つは、世界から認識される金沢の夜景を1カ所でも確立する。そんなような2つの目線から先ほどの市長さんのプロジェクト、またそういうことも含めて進めていただけたら大変ありがたいと思います。

【水野】 その2つは、試みはすぐに始めてもよさそうですね。

【福光】 すぐ始めませんと、何でも遅くなっておりまして。何せ21世紀美術館の力で持っているところが大変ありまして、ほかのことはごく緊急の課題ということだと思います。

【水野】 もう間もなく新幹線も来ますし、新幹線が来たら日帰りじゃなくて、金沢に泊まらなきゃならない、夜景を見なくちゃいけないという、そういうポイントをつくっておく必要がありますね。そういう意味じゃ、早く試みたらいいんじゃないかと思いますね。

それでは、妹島さん、お願いいたします。

【妹島】 いろんなお話が市長と、それから福光さんから出ましたけれども、夜景は本当に重要だと思うのですが、片方で照らし方でどうにかなるかもしれないというのものもあるけれども、多分、先ほどのгентとかナンシーのを見せていただくと、照らされてなくてもよさそうだと。つまり照らす前に、まずどんな金沢の町並みをつくっていくかということ。ずっとこの景観を考える会を積み重ねていらして、いろんなところが魅力的になっていて、その結果、ある部分、ある部分にスポット的に当ててもこ

んないろんな風景が出てきている、夜景が出てきているということがそれにつながっていると思うのですけれども。

先ほど市長がおっしゃられたとおり、金沢全体のライティング、そこからコンセプトをどうつくっていくかというのは、片方で、どういうまちをつくっていくかということもみんなで考えて少しずつ積み重ねていくということなのかなと。それに向けて何とか部分は結構いろんな、やっぱり伝統があるところはずごく強いから、それでいろんなことがまず可能になるんですよね。新しいまちより。それに新しいものを足していったときにいろんな多様性が出てきている。そこから何とか一つのもののできたらいいなと。一つのものというのは、一つの金沢という。

今いろんなことをもう一回みんなが振り返り出して、どうやって今まで持ってきたものと新しいものをミックスさせていきたいと思いますかという。それをずっと金沢市は何となく取り組んでいらっしゃるような気がするんですね。それがすごく重要なことで、ライトもそういうところから考えられるし、生み出せるのかなと。

片方で、ただそれは本当に時間がかかっていくから、今、福光さんがおっしゃられたとおり、とりあえず金沢といたらぱっと何か見えたら、これが金沢の夜景か、行きたいなというふうなものをつくれると、本当にそれはすばらしいなと思うんですね。

例えば、私この間来たときに驚いたんですけれども、美術館のところから金沢城まで、城壁までつながりましたよね。見ようによっては、美術館の敷地がそのまま広がっているように感じられるのです。そこに香林坊から歩いてきて。あれはちょっと使えると思うのです。いろんなところで、例えばгентだったりナンシーできれいな水辺の運河があって、昔の中世の建物にライトを当てて、何とか城壁とお城の力と、ちょっとあれですけど美術館があって、自然もその先にあって、あと水もありますよね。ここが何か一つの拠点。間に商店街もあるし、そういうところでさっきおっしゃられた、そこにアクティビティを入れていく。ライトというのが今までのライトアップだとか、確かにおっしゃられるとおり山の上から見たら大体まちの明かりはきれいに見えちゃうわけです。そうじゃなくて、あのエリアを結構広げて、そこと例えば屋外のカフェもあるかもしれないし、もしかしたら和菓子だったり伝統的な工芸のものがまじっているお店もある。水とお城と城壁と公園と、もうちょっと美術館とぐるとで何か一つの風景。そこに人が出てきて食べていたり。そんなものが一つの。昼間は結構視覚的につながりに見えるけれども、まとめ方によってはライトで一つのエ

リアをもっとはっきり見せることができると思うんです。そこにいろんな流れる水があつたり、ちょっとお店があつたりというような。何か今までにない、これはちょっと行ってみたら、きれいなだけじゃなくて楽しそうだし、一粒で5度おいしいぐらいのライト空間を味わったり、自分もそこでおいしいものを食べたりできるかなみたいな。見るだけじゃなくて、自分もそのライト空間をつくる一部になれるみたいな、そんなのが今お話お聞きしたり見ながらできないものかなと思いました。



【水野】 何かイメージがわいてきますね。特にきょう中央公園でフードピアのテントがいっぱいあるんですね。あれをどう演出するか、もう一回考え直す必要があるかもしれませんね。お城、広坂緑地、21美、兼六園、含めた中に食文化がどう絡みながらライトアップされて存在していくかというのは。今いいストーリーをいただいたような気がしております。実際やるには大変だと思いますけれども、挑戦という意味では非常におもしろいかなと思っています。

もう大分時間が来ているんですが、会場の皆さんで何かご質問、ご意見等ありましたら1つ2つ。

【会場1】 大変刺激になるお話をありがとうございました。

金沢は年間の雨量が2,400ミリを超える雨が降るんですね。東京と比べても1,000ミリも多い。ヨーロッパなんかはもっと少なく、金沢の3分の1ぐらいですね。いつも例えば金沢駅におり立ってバスに乗りますと、まちが暗くてとても寂しいのです。雨がしとしと降っていますと。

まちへ出て思うのですけれども、例えばウインドウの入れかえをして中で作業している人が見えますと、ほっとするんです。働いている人が見えますと。そういう意味では、私は21美のデザインというのは金沢に画期的なインパクトを与えてくださったと思うのですけれども、雨が多いためにまちに出れないというのがかなり市民の皆さんも思っていらっしゃることじゃないかと思うんです。きょうも冷たい雨が降っていますけれども、かなり勇気を持って、どうしようかと思ひながら、でも知的な意識に燃えた方々がいらしたのだと思うのですけれども。

ですから雨の日でもすてきだなと思えるような仕掛けを、なかなかコストもかかると思いますし時間もかかると思うのですけれども、それをやっていただきたいというのが一つ。

あと、金沢は山あり川ありで起伏がありますから、何もしなくても、例えば小立野の尾根を錦町のほうへ参りますと尾根が細くなっています、左右の町が犀川、浅野川が見えるんですけども、とても美しいのです。まして卯辰山へ登れば美しいですし、寺町台地からも非常に美しい夜景が見えます。そういう今まで余り夜景がいいからというアピールされていないところをうまくつなげて、そこを利用するような仕掛けをつくっていただくと、もっといいかなという気がしております。

以上です。

【水野】 ありがとうございます。

あと1分ぐらいしかないので慌てておりますが。

いろいろいただいた意見の中で思うのですけれども、ベーシックなものとして安心・安全とか省エネとか含めて、金沢市全体をどう景観整備したらいいかというのは、平成20年の景観条例で金沢市全域をカバーしていると思います。それからシティ・ピープル・ライト賞をもらった兼六園周辺、お城周辺については県が「灯の回廊」というのをやって、先ほど福光さんがおっしゃった低いライトアップのときに実験して持っていったやつなんですけれども、そんなふうにしてこの中心部はかなり県、市が力を注いでライトアップをしてきております。

そういうベースみたいなものの上に立って、さらにワンランクアップするということがどういうことなのかということをお三方からいろいろなアイデアをいただいたように私は思っております。やはりある程度ベーシックなところというのは、ほかの都市でも必要なことであって、どこの都市でもやってくるある水準だと思います。それを超えること。金沢のよさというのは、味にしても建築にしても町並みにしても普通を超えたところの存在を持っているというところがあると思うのです。ですからこれからは我々の時代にこういったところの存在をつくっていくというのが必要な時代、必要だと思っています。そのつくったものが後世にまた一つの財産として残っていく。

そんなような意味でいくと、夜間景観というのは新しいテーマですので、我々の時代で我々の一人一人がつくっていくというのが必要だと思っています。そういう意味

で、福光さんが先ほどおっしゃった普通のまちというのもそうだし、普通のまちでどういう明かりがいいのかを実験してつくっていくというのが必要だと思います。そういうふうにつくっていくという姿勢を持ちながら、これから夜間景観をもう一回考え直したらいいのではないかと考えております。

それともう一つは、そういうつくるきっかけになるのでしょうかけれども、先ほどのマッピングの話じゃないですけども、光のイベントというのを金沢は一生懸命やってきました。きょうここに川崎先生もお見えですが、月見行路をやってみたり、昔、小松の長谷川さんという人がデジタル掛け軸というのを日本で始めてやってくれたりしておりますし、私は日本文化デザイン会議のときに犀川大橋の両側の石垣に光のあやとりをやったんですけども、鏡を置きましてレーザー光線を当ててあやとりをやるんです。物すごくきれいなあやとりができ上がるのです。そんな光のイベントも随分やったことがあります。そういう光のイベントというのも一つ、瞬間的ですけども、都市の夜を楽しむということではいいのではないかと考えております。

そんな意味で、いろいろな実験を重ねて行って、ぜひ、もうあと2年しか新幹線まで余裕はないのですけれども、新しい何かを生み出していきたいなと考えております。

きょうは市長さんが非常に前向きな発言をされたので、多分実現するんじゃないかと考えて期待しております。

ちょっと時間が過ぎてしまいましたが、これで終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

【司会】 ありがとうございました。パネリスト、コーディネーターの皆様には一度大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

これもちまして第35回金沢都市美文化賞記念事業 金沢の景観を考える市民会議の全てのプログラムを終了いたしました。

皆様には進行にご協力いただき、感謝申し上げます。また長時間のご参加、まことにありがとうございました。

どうぞお気をつけてお帰りください。



—第35回金沢都市美文化賞記念事業—  
**金沢の景観を考える市民会議**

日時：平成25年(2013)2月8日(金)

会場：金沢21世紀美術館「シアター21」

---

編集・発行／金沢市都市整備局 景観政策課  
〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

写真提供／ 津田 外喜弘 (景観サポーター)  
稲垣 哲一 (景観サポーター)